

特集の扉

11 号特集「プログラムマネジメント教育の現状と展開」

2020 年度編集委員会

委員長 亀山秀雄、副委員長 佐藤達男

編集委員 中村 明、中山政行

西田絢子、中川 唯

企画趣旨

国は初等中等教育段階から STEAM 教育 (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics) を推進するとしています。産業競争力懇談会でも 2020 年 10 月に「社会で育てる STEAM 教育のプラットフォーム構築」を提言しています。2021 年度からスタートする科学技術・イノベーション基本計画でも STEAM 教育を重要な政策の柱としています。具体的な STEAM 教育プログラムの中でプロジェクトマネジメントが教育の最終レベルに置く提案が示されています。実際に STEAM 教育が目指すもの「各教科での学習を 実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」とプログラムマネジメント教育が目指すもの「組織の戦略や方針のもとで複数のプロジェクトを同時に遂行する複雑な多目的型の問題解決手法」との類似性が多く見られます。従って、実際の研究開発や事業創成に役立つ手法としてプログラムマネジメントは大学院レベルや社会人教育レベルを教育対象として位置付けていくものと思われます。

そこで 11 号では、前号特集「プログラムマネジメントの時代」に引き続きまして、「プログラムマネジメント教育の現状と展望」を特集企画することにしました。

P2M やプログラムマネジメント教育は、現状では教育機関、職場、地域活動、外部委

託の講習会やセミナーなど様々な場所で行われています。これからは、社会で育てる STEAM 教育のプラットフォームを構成する役割も学会にあると思われます。オンラインアクセスで発行する P2M マガジンの掲載記事が広く社会へアウトカムをもたらすことを期待しています。

掲載内容

執筆依頼先は、大学の教育現場以外に企業や政府関係の機関にも執筆をお願いしました。その結果、特集に合わせた巻頭言や研究室紹介を執筆をして頂きました。その結果、会員外から 5 件の特別寄稿と会員による記事 7 件により、特集関係の記事を 13 件掲載することが出来ました。分野別では、社会現場での記事 3 件、国の競争的資金管理組織 (FA) からの記事 3 件、大学教育関係から 7 件となり、プログラムマネジメントが社会のいろいろな分野で教育される時代に合ってきた事が伺われます。

年度末のご多忙の中、執筆頂いた方々に心から御礼を申し上げますと共に、令和 3 年度から始まる第 6 期科学技術・イノベーション基本計画において、関係各所でのプログラムマネジメント教育の成果が発揮されることを期待したいと思います。

(2021 年 3 月 20 日)